様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４４０１０３６

研究課題名（和文）ネオ・リベラリズムの進展とアジア化するオーストラリア社会に関する人文地理学的研究

研究課題名（英文）A geographical study on the changing social structure of Australian metropolitan areas focusing both on the impacts of Neo-liberalism reform and Asian engagement

研究代表者
堤　純（TSUTSUMI, Jun）

筑波大学・生命環境系・准教授

研究者番号：９０２８１７６６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，現代オーストラリアを理解するために必要な視点として，ネオ・リベラリズム（新自由主義）の進展に伴い，急速に多様化する都市社会形成のプロセスを実証的に解明することを主眼とした。移民の増加やエスニックグループの住み分けの進展は当初の予想以上に進んでいることが明らかとなった。また，中国を強く意識した貿易の構造変容についても，とくに西オーストラリア州における資源輸出産業を事例に明らかにした。観光化の進展についても重要な切り口であり，都市観光のほかウルル（エアーズロック）を目指す観光客の属性やその特徴の分析から，観光産業の持続性と脆弱性について明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This project coved the consideration of how major old ethnic communities were involved in the expanding Australian metropolitan areas; and how cultural diversity influenced urban spaces and places. A GIS-based mapping with “table-builder data” distributed by Australian Bureau of Statistics was used to identify the process. Leichhardt in the inner suburb of Sydney as an example of Italian communities, Gungahlin in Canberra as an example of Chinese communities and Virginia in Adelaide as an example of Vietnamese communities were selected for detailed interview surveys. Majority of ethnic communities consists of people who have lived in Australia for more than several decades. However, newcomers have been very common in Australian Metropolitan Areas recently because they take the opportunity of studying in Australian Universities to begin living in Australia. Their English is generally proficient and tend to get better-paid jobs.

研究分野：人文地理学

キーワード：オーストラリア　多文化社会　ネオ・リベラリズム　アジア化　GIS

１．研究開始当初の背景

オーストラリアでは，白豪主義が終焉した 1970 年代以降，東南アジア系や中国系の移民が大量に流入した。また，1990 年代後半以降のグローバリゼーション下では海外からの不動産投資も急増し，南東部の都市部を中心に観光産業も急拡大した。このようにエスニック・文化的多様性が顕在化する一方で，オーストラリアでは「小さな政府」を目指すネオ・リベラリズムも浸透しており，エスニック・マイノリティ等の社会的弱者の切り捨てにつながりかねない危険性が指摘されている。

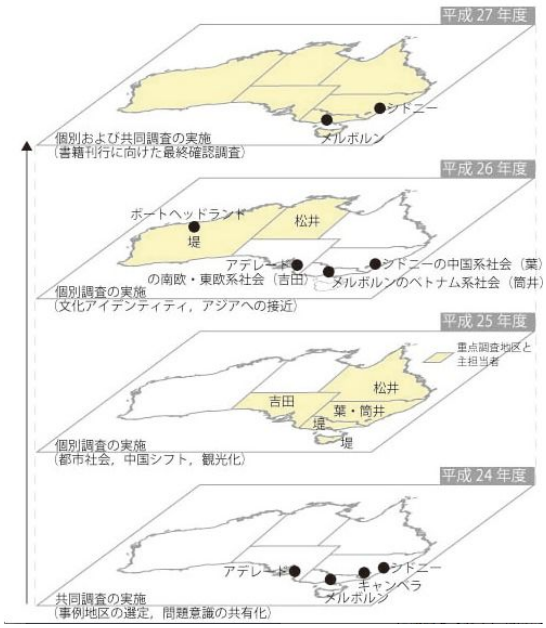
また，移民のオリジンの多様化は，都市の居住構造にも反映している。例えば，申請者らがメルボルンの郊外を対象にパイロット的に行なった研究（研究業績の 4）によれば，1960 年代に入植したギリシア系やイタリア系等の「英語の通じない白人」は，当時の大都市圏の再縁辺部（メルボルンの都心から約 15km）に集住する傾向が確認できる。彼らの入植した地区は，トラム，郊外鉄道，バス等の多様な公共交通インフラが充実する地区（middle class suburbia）よりも若干外側に位置しており，相対的に不便な地区であった。しかしこれらの地区は，モータリゼーションの進展により，大学や工業団地の郊外進出とも連動して外延的に拡大を始めたばかりの「新しい郊外」であり，1960 年代の移民たちが主として居住したことにより，新たな住宅地区として大都市圏の外延的拡大に貢献してきた（Phan, 2010）。一方，1970 年代以降に入植したアジア系移民の集住地区は，1960 年代の東欧系・南欧系移民の集住地区よりもさらに郊外（都心から 20km 以遠）に点在している。このように，大都市圏内には民族的なモザイクが形成されていることを指摘したり，個別地区の事例研究はいくつか存在するものの，急速に多様化する都市社会形成のプロセスを実証的に解明した研究は殆ど存在しない。こうした諸点の考察・解明が必要との認識に至り，本研究では次のような研究目的を設定した。

２．研究の目的

オーストラリアは，カナダと並び多文化主義を推進する国として広く知られている。白豪主義が終焉した 1970 年代以降，東南アジア系や中国系の移民が大量に流入した。また，1990 年代後半以降のグローバリゼーション下では海外からの不動産投資も急増し，南東部の都市部を中心に観光産業も急拡大した。このようにエスニック・文化的多様性が顕在化する一方で，オーストラリアでは「小さな政府」を目指すネオ・リベラリズムも浸透しており，エスニック・マイノリティ等の社会的弱者の切り捨てにつながりかねない危険性が指摘されている。本研究では，相反する二つの社会的理念・潮流が同時進行するオーストラリアの都市社会に焦点を絞り，ネオ・リベラリズムの進展がオーストラリアの多文化社会に与える影響を実証的に解明することを試みた。

３．研究の方法

本研究の研究者グループはみな海外調査の経験が豊富である。加えて，研究代表者は全国組織である GIS 学会の四国支部長を務めた経験があり，これまで，GIS を人文・社会的な視点から活用した研究に取り組んできた。本研究は詳細な現地調査による定性的な分析と GIS による定量的・客観的な分析をバランスよく組み合わせる点に学術的な特徴がある。



＜研究代表者＞
堤　　純：総括，GIS 分析を担当。
＜研究分担者＞
吉田道代：都市社会分析，とくに多文化社会形成のプロセスの実態解明を担当。

葉　倩瑋：社会経済分析，とくに「中国シフト」の要因と影響の分析を担当。

松井圭介：文化観光分析，移民集団の文化アイデンティティ分析，観光化進展の影響分析を担当。

筒井由起乃：社会歴史分析，都市内のベトナム社会形成のプロセスの実態解明を担当。

具体的には，正確かつ詳細な統計整備に定評があるオーストラリア統計局に対して，センサスのカスタマイズ・データを発注する（例えば，「アジア諸国生まれ／大学卒／週給 300 ドル以下」といった，特定の属性をクロスさせた小統計区単位の特注データを購入）。これらのデータを GIS と組み合わせて，

研究課題に沿った適切な事例地区を選定する。また，聞き取り調査で得た資料等と GIS による解析結果とを照合することにより，詳細な都市社会分析を進めた。

４．研究成果

本研究の申請時には，現代オーストラリアを理解するために必要な視点として，ネオ・リベラリズム（新自由主義）の進展に伴い，急速に多様化する都市社会形成のプロセスを実証的に解明することを主眼としていた。移民の増加やエスニックグループの住み分けの進展は当初の予想以上に進んでいることが明らかとなった。また，中国を強く意識した貿易の構造変容についても，とくに西オーストラリア州における資源輸出産業を事例に明らかにした。観光化の進展についても重要な切り口であり，都市観光のほかウルル（エアーズロック）を目指す観光客の属性やその特徴の分析から，観光産業の持続性と脆弱性について明らかにした他，その考察の過程において，観光の推進と抑制の相克についても学術的な問題を投げかけた。

さらに，本プロジェクトによって作成した論文をもとに結果の詳細を述べる。1970 年代に白豪主義が撤廃されたことは，オーストラリアが多文化社会へと舵を切る大きな契機となった。シドニーを対象に移民の増加をみると，仕事では英語を使うものの，家庭では英語以外の言語を使う人口の増加が著しい。シドニー大都市圏では，増加の著しいアラビア語人口やヴェトナム語人口などは，ポートジャクソン湾の南側の低所得者の多い地域に集中する傾向にある。一方，標準中国語や広東語を話す人口は，大多数は低所得者の多い地域に集中するものの，同湾の北側に位置する高所得者の多い地区にも相当数が進出していることがわかる。国勢調査のカスタマイズ・データを分析した結果，中国系やインド系の移民は，シドニーに多く住む他のエスニックグループに比べて，学歴や所得の面で高い傾向が確認できた。

人口規模が縮小し，居住地が分散しつつあるシドニーのイタリア系コミュニティが，移民集団としての民族文化を表象する場所を 1 世の集住地ライカートに求め，コミュニティの拠点を再構築しようとする試みに注目した。ライカートは，1950 年代にイタリア系移民 1 世の居住・商業活動の中心であったが，1970 年代以降イタリア系住民の数が減少し，そのビジネスも縮小していった。この状況下で，1999 年に同地区にイタリアの景観・文化をイメージした商業・居住・文化活動の複合施設，イタリアン・フォーラムが建設された。しかしこの施設は 2000 年代末には商業的に行き詰まり，イタリア系コミュニティの歴史や民族文化を表象するアイデンティティの場所としても機能しなかった。それでも現在，イタリア系住民の互助組織がこの施設内のイタリアン・フォーラム文化センターを利用し，イタリア系コミュニティの拠り所となる場所づくりをめざしていることが明らかとなった。

また，近年中国系移民（華人）が急速に増加している。首都キャンベラでは，とくにその割合は高く，2006 年から 2011 年の 5 年間でほぼ倍増した。キャンベラで華人人口が増加し始めたのは，天安門事件発生後の 1990 年以降で，2014 年現在，17 の華人団体が形成されている。キャンベラの華人社会の特徴は，出身地や目的等を異にするこれらの団体が，一つの組織を形成し，相互に協力し連携し合いながら，キャンベラの華人社会全体をまとめていることである。またキャンベラが政治・行政機能に特化した首都であるという地域性を反映し，華人社会においても公務員と学生が圧倒的に多い。そのため華人社会の空間構造は，他都市のように出身地ごとの居住分化はみられず，来豪年および収入によって，華人社会の空間構造が分化していることが明らかとなった。

さらに，オーストラリアではアジア化が進んでいる。なかでも多いのが，中国，インド，ベトナムである。中国やインドからの移民が 2000 年代以降に急増したのに対し，ベトナムからの移民は 1970 年代後半からのインドシナ難民を中核としており，在豪年数の長さと難民としての性格を持つ点が特徴的である。ベトナム系は特にニューサウスウェールズ州とヴィクトリア州に多いが，クイーンズランド州，南オーストラリア州にも 1 万人以上が居住している。シドニー郊外のカブラマッタに代表されるような「ベトナム人街」も形成された。来豪時期によって社会経済的な背景が異なることに着目し，属性の違いが移民の職業選択や居住地選択といった意思決定や生活形態におよぼした影響が明らかになった。

本研究を 4 年間にわたり遂行し，研究成果の公表にも積極的に取り組んだ結果，おおむね当初の目的を達成できたと考えられる。その一方で，本研究で明らかにしてきた事項が，世界の他地域（たとえば，同じく移民問題に揺れる北米やヨーロッパ諸国，また，資源貿易が大きな比重を占める BRICs 諸国など）の事例と比べてどの程度の一般性が認められるのかといった点についての考察には至らなかった。これらについては，科研費以外の経費などを活用しながら，引き続き解明に取り組む予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）
①堤　純・吉田道代・葉　倩瑋・筒井由起乃・松井圭介．センサスデータからみたオーストラリアにおける多文化社会の形成．地理空間，査読有，8，pp．81-89．2015 年．

②吉田道代・葉　倩瑋・筒井由起乃・松井圭介・堤　純．シドニー・ライカートにおけるイタリア系コミュニティの拠点再構築の試み．地理空間，査読有，8，pp．91-102．2015 年．

③葉　倩瑋・筒井由起乃・松井圭介・堤　純・吉田道代．　キャンベラにおける華人社会の空間構造．地理空間，査読有，8，pp．103-115．2015 年．

④筒井由起乃・松井圭介・堤　純・吉田道代・葉　倩瑋．南オーストラリア州アデレードにおけるベトナム系住民の分布とその特徴．地理空間，査読有，8，pp．117-129．2015 年．

⑤松井圭介・堤　純・吉田道代・葉　倩瑋・筒井由起乃．聖地ウルルをめぐる場所のポリティクスとアウトバックツーリズム．地理空間，査読有，8，pp．131-142．2015 年．

⑥堤　純・磯野　巧・吉田道代・葉　倩瑋．ウェスタンオーストラリア州における資源貿易をめぐる近年の動向．地理空間，査読有，7，pp．83-93．2014 年．

⑦堤　純．使用言語からみた社会経済特性の差異－大都市シドニーのジェントリフィケーション－．統計（日本統計協会），65（6），pp．42-45．2014 年．

⑧堤　純．シドニーとメルボルンにおける都市社会の多様性–地理情報システム（GIS）を用いた分析の可能性–．オーストラリア研究，査読有，第 26 号，pp.37-48.2013 年．

⑨堤　純．オーストラリアの地理学．地学雑誌，査読有，東京地学協会，121 巻，pp.891-901．2012 年．

⑩堤　純．メルボルン大都市圏における通勤特性－オーストラリア国勢調査「テーブルビルダー」データを利用して－．統計（日本統計協会），63（2），pp．19-25.2012 年．

〔学会発表〕（計 11 件）
①Tsutsumi, Jun; Yoshida, Michiyo; Yeh, Chienwei; Tsutsui, Yukino; Matsui, Keisuke. Time series changes of ethnic communities in Australian metropolitan areas. International Geographical Union Urban Commission, August 10, 2015, University College Dublin, Dublin, Ireland.

②吉田道代・堤　純・松井圭介・葉　倩瑋・筒井由起乃．オーストラリア・シドニーにおけるイタリア系住民．日本地理学会春季学術大会（日本大学，東京都世田谷区），2015 年 3 月 28 日．

③葉　倩瑋・筒井由起乃・松井圭介・堤　純・吉田道代．オーストラリア首都キャンベラにおける中国系住民の社会空間構造．日本地理学会春季学術大会（日本大学，東京都世田谷区），2015 年 3 月 28 日．

④筒井由起乃・松井圭介・堤　純・吉田道代・葉　倩瑋．南オーストラリア州アデレードにおけるベトナム社会の形成．日本地理学会春季学術大会（日本大学，東京都世田谷区），2015 年 3 月 28 日．

⑤松井圭介・堤　純・吉田道代・葉　倩瑋・筒井由起乃．聖地ウルルとアウトバックにおける宗教ツーリズム．日本地理学会春季学術大会（日本大学，東京都世田谷区），2015 年 3 月 28 日．

⑥Tsutsumi, Jun. Gentrification in the inner suburbs of Sydney, Australia. International Geographical Union Urban Commission, August 14, 2014, Adam Mickiewicz University, Poznan, Poland.

⑦堤　純．オーストラリア国勢調査「テーブルビルダー」を利用した社会地理分析．日本地球惑星科学連合 2014 年大会 セッション H-TT34（地理情報システム）招待講演（パシフィコ横浜，神奈川県横浜市），2014 年 4 月 28 日．

⑧堤　純．シドニーにおけるジェントリフィケーション．日本地理学会春季学術大会（国士舘大学，東京都世田谷区），2014 年 3 月 28 日．

⑨Tsutsumi, Jun. Urban social process in the Sydney metropolitan area, Australia. International Geographical Union, Kyoto Regional Conference, Kyoto International Conference Center，京都府京都市，2013 年 8 月 6 日．

⑩堤　純．オーストラリア国勢調査「テーブルビルダー」データを利用した社会経済特性の分析．全国共同利用研究発表大会 CSISDAYS 2012（2012 年 11 月 2 日，東京大学空間情報科学研究センター，千葉県柏市）．

⑪Tsutsumi, Jun. Urban social process in the Melbourne metropolitan area, Australia. International Geographical Union, Urban Commission on Urban Challenges in a Complex World (IGU Urban Commission, August 23, 2012, Technische Universität Dortmund, Germany).

〔図書〕（計 2 件）
① Tsutsumi, J . Vertical extension processes and urban restructuring in Sydney, Australia. In Daniel P. O'Donoghue (eds), Urban Transformations: Centres, Peripheries and Systems. Ashgate Publishing, pp. 121-128.2014 年.

②堤　純．オーストラリアの都市域の拡大と地域構造の変化．菊地俊夫・小田宏信編『世界地誌シリーズ 7　東南アジア・オセアニア』朝倉書店，pp. 129-138. 2014 年.

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
堤　純（TSUTSUMI, Jun）
筑波大学・生命環境系・准教授
研究者番号：90281766

(2)研究分担者
吉田　道代（YOSHIDA, Michiyo）
和歌山大学・観光学部・教授
研究者番号： 40368395

葉　倩瑋（YEH, Chienwei）
茨城大学・人文学部・教授
研究者番号： 30242332

筒井　由起乃（TSUTSUI, Yukino）
追手門学院大学・国際教養学部・准教授
研究者番号： 10368186

松井　圭介（MATSUI, Keisuke）
筑波大学・生命環境系・教授
研究者番号： 60302353

(3)連携研究者
なし